

二〇三三年五月五日

強風に尾もちぎれんと鯉のぼり

かえる

一条の滝湿原の水集め

素秀

疾風のごと土手かすめ燕来ぬ

きよえ

新幹線水田を疾駆するごとし

むべ

宛若葉ピアスのパパが嬰を抱く

あひる

二〇三三年五月四日

水打つて風の生まるる石畳

みきお

鯉のぼり高しイベント睥睨す

明日香

古墳へと道しるべ立つ花菫

宏虎

異国訛り交じる町内溝浚へ

みきお

二〇三三年五月三日

溪谷の樹間をつづる山つつじ

素秀

天つ藤句帳に屑をこぼしけり

ぼんこ

海見ゆる窓辺に旅の春惜しむ

はく子

遊園地子らを見守る春日傘

愛正

ジャスミンの香や洗濯も苦にならず

せいじ

喬木の森の小道の新樹光

よし子

二〇三三年五月二日

大蟻と睨めっこせる園児かな

もとこ

藤の屑払ひて座るベンチかな

むべ

老い母の受洗祝ぐやに春の星

せいじ

囀りが天蓋なせる遊歩道

満天

晨朝の森の間遠に鹿の笛

澄子

二〇三三年五月一日

お披露目の花嫁に添ふ若葉風

こすもす

二〇三三年四月三〇日

袈裟懸けに藤纏ひたる天狗杉

隆松

山頂の巨岩にたてば風涼し

せいじ

花は葉に歩数稼ぎの散歩道

たか子

二〇三三年四月二九日

長堤を自転車通勤風薫る

こすもす

農に就く子の逞しき日焼かな

たか子

春愁や老の恙を持って余し

はく子

白杖の人藤房に触れて愛づ

なつき

山頂の崖下樹海をなす若葉

あひる

紅白の間の子も咲く庭躑躅

うつぎ

毎日句会みのる選・二〇三三年五月七日